夕刊 磐城新聞
一月十五日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾錢（郵税拾五錢）
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

# 明治物と讀者の好尚
…小説は警世の具也の辯…

寺島柾史

◇

小説は、いはゆる小人の説であつて、高論卓説と相對峙にみられるものであるが、一面においてこれを警世の具と心得てゐるわたくしなどは、常に小説執筆等に當つて、この時代精神の再現といふことを念頭にうかべるのである。つまり、高橋お傳の情痴行状を、舞臺を明治初年に取つて巧みに描寫するにしても、そのお傳の心理行状が、銀座を漫歩するモダンガールの心をすら動かすやうでなければ成功とはいはれないとおもふ

◇

わたくしにこんな經驗がある。嘗て『日本新聞』に『鹿鳴館時代』を連載したときである。明治初期の時代風俗を研究し、大いに想を練り、構想をたくましうして二三十回下書したが、偶然にもこの時手に入れたのが德富蘆花の『黑潮』である。讀んでみると、やはり鹿鳴館を主材とした小説であつて、しかも、わたしの書かうとしたことが、すでに巧みに描かれ盡してあつたので、わたくしは、呆然自失一度は筆を折つたが、さらに心機を一轉して新しく構を起したわけである。つまり、初會の『鹿鳴館時代』に明治開化の風俗人情をさながら寫さうとして失敗したもので、新しく構を起したものは、その明治開化の風俗人情を現代に持つて來て、現代の生活を諷刺し警世したのである、幸ひに豫想外の好評を博し、最初の百五十回の約束が、つひに四百回に及んだわけである

要するに、時代小説を書くにも、現代小説を書くにも、心構は一つであつて、その時代に囚はれてはならぬ。中里介山の『大菩薩峠』は二十年來綴けられ今にして讀者の減じないのは、あの小説は幕末にし取材て現代を描いてゐるからである

## 石鷄新年句會
三點句

門の灯のつきては消ねし雪しまき　柴子
雪を持つ遠嶺は晴れて鍬初め　同
門を閉づ老使の咳や雪しまき　同
新海苔や簑を並べたる濱の風　青州
神苑の松をバックに初寫眞　一衛
新海苔の簀に青々と干されけり　青州
粧の母とはなりぬ初寫眞　青柳子
鍬初終へて暫らく立ちゐたり　同
濱風の荒ぺる丘や鍬初め　寒山子
初寫眞出初の勢をうつしけり　好山
初寫眞かたごとの子を抱きにけり　露草

## 磐城歌壇
新妻久滿夫選

『弟の歸省』　星影愛子

◎年賀文書きてひたすら更す夜の、玻璃戸にさやる雪のかそけさ
○弟の土産の菓子を亡き父へ、熱き澁茶もそへて供ふも
○明日はたつ今宵一夜の弟を、そばにいねかせ語り更す夜
◎都人へ贈る土産に母刀自の、皺手に揉みし干柿を持たさす
○友々がスキーの便り書き寄せき、いでゆ五色の雪の繪文に
○降る雪にひそまる夜の裏町を、醉び行く人のさびた唄聲

寸評　作歌の上に著しい進境を示してゐるが猶一段の精進を怠つてはならぬ。第一首靜かな歌であるが、下の句は兎も角として上の句下部表現上に再考の要がある。第二首素直な歌である。但し『供ふも』は再考。『明日は立つ』の歌も結句『語り更す夜』では作者のその時の感情が現はれない。第四首は素朴でよいと思ふ。第五首、並に六首は凡。

## 潮聲硯靜抄帳
＝雜詠＝秋の動物　清宮支峯選

鳴子ひくや木の葉のやうに稻雀　松堂
虫の音に落ちつきかねし水枕　微恙
夕百舌の風にさからひ高啼ける
いぼむしりしかと枯草つかみ居る
はぐれ雁一羽おくれて啼き過ぎる
庭石にあたる横日や秋の蠅　二葉
百舌鳥啼くや眞菰焦して日の沈む
貸舟はみな出拂ひぬ鯊日和

## その日〜

1月16日
△玉川水道落成（承應二）△米國絶對禁酒案通過（一、九一九）△國際聯盟十九國委員會再開△アメリカ政府は滿洲國不承認主義を列國へ通告△早蕨殉難者中准士官以下の特殊並級發表（昭和八）△國際聯盟支那問題委員會開く△ドイツ政府、聯盟事務局宛にザール問題討議に參加拒絶を通告（同九）

○

冬の雨も、けふはあたゝかい。みかんをほゝばり乍ら、炬燵の中でうと〜とする

## 講談
戸隱奇譚 山の怪秘 (84)
丸山寛雄作　眞木浪畫

川中島（八）

岡庭典膳はゴクリと一服吸ひつけながら、花の精のやうなお豐の身體を貪り眺めてゐる

うまく行けば千兩にはなるぞ！賣り口は何處がいゝかな！椎堂か、追分か！椎堂なら、追分より町場であるから値が高く賣れるぞ

典膳の思ひは、もてあそぶ事を通り越して、いくらに賣れるかといふ胸算用だ

慾に考へ及ぶと、典膳はもうぢつとして居られなくなつた

『おい、奴、奴』

うしろを向いて急いで怒鳴つた

しきりに丁半を爭つてゐた一人が雁首をねぢ向けた

『へえ、親方、なに御用でごせえます』

『お前達はな。これを向ふの船小屋へ運んでくれ。そして一人づゝ番をしてゝ呉れ』

『へえ、では、今夜一番中？』

『馬鹿ッ、まだそこまでは云ひ附けてない。たゞ逃げないやうに張り番をしてればそれで役目はすむんだ。下手に手を出しやがると、これだぞ』

典膳は拳をあげて張り倒すやうな格好をして見せた

『へゝ、大丈夫でござんす承知仕りやした』

『承知したら早く運んで行け、見ろ、向ふから客を渡せて舟がくるぢやないか。姿が見えちや具合が惡い。そこらに菰は無いか、菰を冠せて人目につかぬやうに運んで行くんだ。どぢを踏むと承知しねえぞ』

岡庭典膳は、てきぱきと無智な川越人足を牽制してゐる

人足は人足で好相手の岡庭典膳といふのが山法師上りの、劍術の出來る浪人だといふことを知つてゐるので、無暗と反抗するわけに行かない、同じ親方にしても、こんな骨つぽいのは煙たがつてゐるのだつた

三人の人足共は、そこらあたりを見つけるが、菰一枚も見當らない。そのうち一人が茶店の方へ走つて行つたかと思ふと、大きな味噌桶を擔いで來た

『この中へこめて、砂利を運んでゐるんだとさへ云や別に客人も咎めませんよ』

擔いで來たのがいふ

『これは棺桶みたいだ。恰度いゝ入れちまはう』

三人は、お豐の身體を手どり、足どり、その中へ落すやうに入れてしまつた

『さうだ。これで擔いで行くんだ。なるたけ早く歩いて行け』

『親方、このまゝ蓋をして船小屋の奥へ轉がしておきませうか』

『馱目だ。そんなことをしては、値になる生き物だ。固くなつてしまつては、から値打がない』

人足は無駄口を叩きながらも荒繩を十文字にかけ、天びん棒を通して擔ぎあげた

溜り部屋を出る。日光は明るい

まるで遠くから見れば土人の葬式か、非人の引越しのやうに見受けられる

岡庭典膳は溜り部屋の中でこれを見送つた

今夜おそくあの船小屋へ行つて一晩中樂しむことだ。それには人足の奴等には金を呉れて、地獄宿へ遊びに出してしまふことだ。それにしても早く身代金のかけ合ひに行かねばならない。色々な慾を果すには面倒なことだ——

典膳はこの渡船場唯一の遊女周旋屋の方へ歩いた。そこは普通の茶屋になつてゐるが、そのお内儀さんが稼業にこれを營んでゐた

色々な喜びにあつた典膳の左手の甲には、またしても精神感動による黑あざが出てゐた

『また出やがつたな』

典膳は左手の甲を着物にこすりつけるやうにして周旋屋の中へ入つた

。。。柿梅苗配給　植田町農會では曾て郡農會斡旋で購入した柿及梅苗一千本を十三日會員に配給した

。。。平町絹織産額　平町役場調査舊臘中の絹織物産額左の如く價額計八百十六圓
縮緬一〇二反七六五圓、銘仙及節織一二反四二圓其他九反

。。。平町土木委員會　來る十八日午前九時から開き來年度土木工事設計箇所實地査定につき協議

。。。通話區域擴張　平局で今十五日から

## 眼の手術
磐女校友會誌 かをりから

一年 小野百合子

しと〜と雨が降り、風も交つてやゝしけのやうな日に、私は明雲堂眼科醫院を訪れた。私の目はトラホームなので、手術する爲である。本當に厭だなあと思ひながら行くと、もう明雲堂は目の前に見える。私の胸はどき〜して音まで聞えるやうな氣がした。そんな事を考へながら入つて行く。看護婦が出て來て[illegible]のに良く來ましたね。手術するんでせう』と言つた

うなづくと、『ではこちへいらつしやい』と診察室へ通された。すると醫者が『早く手術の準備をしなさい』と看護婦に命じた

看護婦は早速目藥を數回スポイトでさした。そして何やらカチ〜と音をさせながら、手術の用意をしてゐた。二十分位たつと手術室へ通された。私は愈々手術をする時が來たと思ふと體中の血が凍つて、ふるへるやうな感じがした。先づ目に入つたのは、器の中にある綿についた眞赤な血であつた

すると同時に血腥いにほひと、消毒藥のにほひがごつちやになつて、鼻をついた。大方私より先に、今日手術した人があつたのであらう。私は益々おぢけがついて、泣出したいやうな氣持になつた。それから私の目の前には眞白い布で被はれた寢台があつた。すると看護婦が『此處に横になつて下さい』、『そんなに痛くないんでよ、唯注射の時だけでね』と笑ひながらいつた

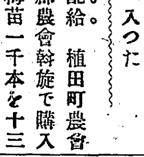
今度は私も餘程安心して寢臺に横たはつた。先づ最初の注射、その時の痛かつた事、まるで先のとがつた鋭いやうな刄物で、目の玉を突き通されたやうで、私は氣が遠くなるやうな心地がした。痛いので目を開けようとしたが、私のすぐ目の前にガス燈がついてゐるやうで開けられない。今度はきつと刄物だつたらう。下まぶたの裏を靜かに〜切り始めた。ちく〜と極く微かに痛むだけであるが私は氣が氣でならない。それで百倍も痛いやうに感ぜられた。すると血かそれとも上からかける藥か何かわからないが一ぱい目のあたりに冷い液体が溢れたのを看護婦が一々ふきとつた。目は針でさゝれたやうに痛む。然し辛棒して今か〜と終るのを待つてゐるが中々終らない。やう〜時間もかゝつて終つたと思つたら、何まだ終らない。今度は上まぶたの裏を燒くのである。私は喜の絶頂から、絶望のどん底へ落ちてしまつた。一その事中止して貰はうかと思つたが、がまんしてゐた

然し今度はさつぱり痛くない。唯ちり〜といふ音とこげくさいにほひが室內に漂ふばかりである。やがて私は手術室を出た。私は本當に嬉しかつた。今まで[illegible]の心の雲がからりと晴[illegible]

茨城縣赤塚―二五錢

十六日（小名濱測候所調査）
日出 六、四六　月出後 一、三七
日沒 四、四七　月沒前 三、五九
滿潮後 〇、三〇　干潮後 九、〇五

新一月十六日　水曜　舊十二月二十二日
壬辰　大安　平　箕宿



諸判定顧問 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神[illegible]館

▲一白の人　我を惡むこと愼行より大なるはなし勉めよ▲二黑の人　何事にも捗り惡しく遲滯勝ちの注意日なり▲三碧の人　一時的の利益に心を驅れば大敗を招くべし▲四綠の人　感情の衝突を避け內外ともに控目たるべし▲五黃の人　見榮を飾らず無理をせず退て生氣を養ふが勝▲六白の人　一家同體となり働けば邪魔物皆去るべし▲七赤の人　壯なるも老ひたるも皆進んで事に當りて吉▲八白の人　働きたる割合に効果少き日和合注意の事▲九紫の人　何事も進んで吉新規企畫には尤も可なる日

專門 耳鼻咽喉科
高柳耳鼻咽喉科醫院
平町驛前（電三三六）
醫學博士 高柳博明
（入院應需 自炊ノ便アリ）

初春 出張賣り出し 十ケ月拂ひ
和洋家具
おなじみの丸和が參りました、御家族御團欒の御居間の御道具は是非丸和の出張所で必ず皆樣の御期待に添ふ樣な精撰せる品々を豐富に取揃へて御座います。
東京丸和家具百貨店出張部
平町南町 片倉繭買場內
（今月一ぱい）

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい……直に家政婦を派出します。
親切叮嚀…料金は極めて低廉です
姙産婦の御家庭　お留守居番
御病人の付添　年寄やお子さんの付添
炊事や雜用
平町紺屋町二（電話二二）
上原家政婦會
會主 產婆 上原通子

磐城家庭婦人會
皆樣方の御手不足を補ふ家庭婦人會が出來ましたどうぞ御試用下さいませ。
親切。迅速。
◎會員募集（入會金ト維持費ハ申受マセン）
平町字田町五（元郵便局ウラ）
駒井ヒデ
電話三九九番（呼出）
…會員募集…

吸入[illegible]
度量衡
モノサシ マス ハカリ
體溫器 寒暖計
◎秤ノ取・縫・絲・修・替致シマス
[illegible]內藥局
電話四〇番

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山市外大槻村針生
郡山驛より約三十丁
安積中學より約五丁
郡山腦病院
電話九二五番
院長醫學士 金森五郎
入院隨時

新進の店 堅實な店
開業
公社債、勸業債券高價ニテ買受ケマス
水戸市ヨリ來マシタ株式店ヲ御利用願ヒマス
公債、社債株式賣物賣買
友部株式店
平町三丁目
電話一七七番
株は一株から
債券は一枚より

ヒノマル
凍魚
國は日本。凍魚はヒノマル
鯛。海老。白魚。帆立貝。
刺身魚、煮魚、各種品々一個一尾ニテモ迅速配達……
日本水産一手特約
發賣元
平製氷株式會社
電話二八・三一六番
平町代理店
ト印魚問屋
電話二五八番

# 平町民が興味の裡に活躍を待つ市制調査會

禪骨俳味たつぷりな財政を筆頭に

## 多士儕々な各部長の顔ぶれ

大した陣痛も無く十名の民間委員を生み出した所謂經産婦の平町市制施行調査會が、滿洲國の行政機構めいた財政部をはじめ總計五名の部長を易々と作り上げたのは、寧ろ事の當然とは云ふものゝ稀には一種の痴逆氣分もあるであらう處を圓く收めた處は先づ以てお手際と稱すべく此間老鶯に鐵鞭を加へつつ大に經綸の若返りを見せつつある青沼町長の進止行藏に嬉しい處がある

○

酒は持ち込み、藝者の纏頭拔き、と云ふ處で辛つと宴會收支の辻褄を合せる樣な平町の財政を燮理すべく其の樞機の首班たる財政部長は金魚の糞の樣に花道にゾロゾロ出て來るオールスター・キャストの全調査會登場人物中唯一の主演者と云はねばならない、而も寒中白扇をパチつかせる程の禪骨俳味を有して竹林の清談を好む底の井上部長に果して克く阿賭物關係の籌劃はどうか、道ふ事弗れ、先の先迄見透す眼光炬の如き玄人を凌ぐ彼氏の將棋戰法で行つたら平町の財政部長位お茶の子だ！。と其の調子で行かれん事を千祈萬禱に禁えない

○

教育國は、みすゞかる信濃の國の淺間山麓に生れた萩原縣議の教育及社會施設部長は大体無難の人選と云ふべく、更に井上消防博士の第二世格(?)たる關内正一氏を警備衛生部長に据ゑた事は之の方面に於ては消防と二位一体とすべき以上今後の治績は蓋し逆かに睹るべからざるものありとするも之亦多くの異存の無い處であらう

○

野崎副議長の産業及資源部長。之れで三縣議の椅子は完全に割り當てられた、農村玉川の生れで自村に村長たる以上之の役割りは強ち漁師に山藷を掘らせる程緣の遠いもので無く靜かにあの膠の樣な粘り、而して根張りで行く仕事の結果を見やうではないか。坂本隆藏氏の土木運輸交通部長に就ては他日永陽の日を期して云爲を試みる、遮莫以上五つの椅子が三縣議と一ダークホース一温厚篤實子の爲に占據せられ所謂コンモンメンバーには全然行き亘らなかつた事をお氣の毒に思ふ、人の爲め授産的に職をつくる事の餘り嫌ひでもないらしい平町としては此際の人心緩和策に市制調査會の副部長制なども如何？かと思ふ

# 平職業紹介所が遠出の活躍開始

効果大に刮目さる

平職業紹介所では縣下各紹介所と歩調を併せ成績余り芳しからぬ娘身賣防止並に職業紹介に就いての趣旨徹底のため四家所長自ら先陣に立つて活躍する事になり先づ比較的不徹底な田村郡山間部は來る二十二日より二十六日迄、双葉郡同方部は同二十八日より三十一日迄、本郡は舊正月を利用し何れも小學校に於て今春巣立つ子女及關係者を集め極力これが連絡徹底に努むる

# 昨春來八ケ月の運轉無事故表彰

明後十七日平驛で擧式

規定改正後第一回の昨年三月より八ケ月間に亘る平驛運轉無事故表彰式は明後十七日午前九時より同驛會議室に於て池田東鐵局長、武井運轉課長、中村水運所長等臨席の下に行はれるが同十時からは機關庫に於て金杯授與式を行ふ筈

# 東鐵局長一行 片濱視察

内容を注目さる

尚式後池田東鐵局長等一行は平後藤驛長の案内により午前十一時より自動車で豊間、江名方面を視察、湯本より歸京する豫定であるがこの視察は平小鐵道敷設正式確定の折柄を大いにその内容を注目されて居る

# 郡下青訓査閲

明後十七日は平

郡下青訓査閲第四區分は聯隊區司令部佐川滿三郎中佐により昨十四日小川、赤井第一、同第二を赤井第一校に於て執行されたを皮切りに順次行はれるが平の分は明後十七日平窪小學校に於て平窪青訓と共に行はれる尚ほ來る二十一日夜の湯本及び翌二十三日の鹿島の査閲には聯隊區司令官眞山大佐が臨席すると又赤井では昨十四日査閲後過般來計劃中の青訓後援會發會式を佐川中佐臨席の下に擧行した

# 爲替拂倍加

客臘中の平局

平局客臘中の現金取扱ひ高は爲替受入四四、六一四圓六三錢 拂出一〇九、三八六圓六四錢 貯金受入一二八、九八一圓三五錢 拂出一六六、七三五圓七三錢で常月に比し貯金は受入二萬圓、拂出五萬圓の増加で爲替は受入は大差ないが拂出は一躍二倍に増加して居る、尚出稼ぎ人から送金の外國爲替拂出五四八圓一九錢も通常に二倍してる

# 海藻及鮑人工養殖

小濱沖の磯に手入れ

植田町小濱港沖合に於ける海藻着生及鮑養殖を計るため縣では同港西南二千米沖合海底二十米の水中に工費三千圓で磯工事に着手したが該新設磯は二千七百二十平方米の廣汎に亘り石塊を積み重ねる難工事で從來同町成瀬組の請負ひにより進めて來たが人夫不足から同町漁民迄が出役して居るため同漁業組合では昨十四日縣にこれが請負ひ方を陳情した

○箱崎氏出發 秋田縣小坂銅山機械係長に轉職の平町水道部主任技師箱崎清一氏は明十六日平發下り午後十一時七分の仙臺廻りで出發に於ける冷害對策道路改修工事は好天候に惠まれた關係から既報の如く三ヶ所が竣功したが昨十四日澤渡、三坂の各二ヶ所も竣功、殘餘分も目下着々進工中

# 一年に約三百廿萬貫

積り積つて山を築く

平町の塵芥汚泥

塵も積つて山となる。平町昨年中の汚物燒却高は町内三千七百五戸より塵芥四、七九六、九五〇瓩（一、二六七、一五五貫四八七）汚泥が七四、六〇〇瓩（一九、八九二貫八三六）

# 米漸騰歩調

當局の政策的る

既報—貯藏籾解除後に於ける倉庫の増加により商人の買入れ困難となつたのは一面當局政策の成功とも言ひ得べく現在郡下の在庫米は四萬俵と稱され之がため客臘二十五日四等買入値二五圓二五錢であつた米價は同二十七日五十錢に去る九日七十五錢と漸騰を續け今十五日は二五圓八七錢を示した

# 救凶工事進捗

本郡

# 磐東銀行總會

配當年二分四厘

濱三郡中唯一の本店銀行たる植田町磐東銀行では常に銷却に努めて内容の充實を期しつつある折柄、最近昭和人絹工場の建設により一般取引の激増を示し大に將來の伸展を期待されてゐるが今期成績左の如く來廿八日株主總會を開く事を昨十四日の重役會に於て決定した

（準備金及利益配當案）一金二千五百七十六圓參錢當期純益金、一金二千七百五十二圓十錢前期繰越金、一金五千三百二十八圓十四錢合計當期利益金之を處分すること左の如し

一金三百圓也法定準備金

一金二百圓也退職給與基金、一金一千七百七十圓也年二分四厘の割（舊株一株に付金六十錢、新株一株に付金十五錢）株主配當金、一金三千五十八圓十四錢後期繰越金

（第二號議案）取締役江尻博孝、金成通、金成金三任期滿了に付改選の件

# 大根の僞造檢印で密殺の豚肉行商

湯本に最初の屠場法遺反

湯本町大字湯本字三函食肉商鯨岡正治(四〇)は昨年九月以來無免許で毎月二頭位づゝの豚を自己所有の豚舍で屠殺しては大根で僞造した檢印を捺してこれを密賣して居た事發覺、昨十四日午後平署に檢擧、目下渡部部長係りで取調べ中であるが同署管内に於ける屠場違遺反はこれが初めてゞあるが尚此種モグリ屠殺をなしボイ儲けを占めて居るものもあるらしいので近く嚴重な取締りを行ふと

# 火事騷ぎが好き

厄介な精神異狀者

## 三度目に捕はる

昨報—湯本町大字水野谷農小野八十吉所有骨束から出た二回の怪火に關し平署では放火とにらみ内偵中昨十四日午後八時頃今度は字龜野農志尾崎義雄方の肥料小屋から發火直に消し止め、隣家の元入山炭鑛坑夫志尾崎猛(二七)を有力な容疑者として引致取調べの結果前後三回に亘る放火を自白した猛は最近入山炭鑛を馘首されてから多少精神に異狀を呈したものゝ如く、妻と自家馬小屋の二階に起居して兄弟達の仕送りで暮して居たもので面白い火事騷ぎのドサクサに同所を脱走小名濱邊へ出稼ぎに行くつもりでゐたとほざいて居たと

# 一人に二つの戸籍

元鎌田娼妓を母に持つ

合格壯丁から訴訟提起

平町研町六、本籍宮城縣柴田郡槻木町大字入間田字金谷一二八、船山勝衛事佐々木一衛(三三)は此程平町門傳辯護士を代理人として養父船山助治郎(五九)を相手取り親子關係無効確認請求の訴を平支部民事部に提起した

一衛の實母佐々木ゑなよは大正三年平町五色町榮樓事阿部兼吉方に駒吉の源氏名で娼妓稼業中、同年五月五日一衛を生んだが娼妓稼業中の事とて養育に困り馴染の阿部良七の手で材木町齋藤周造を介し船山助治郎及びその内妻佐藤タキに里子に預けた處、一衛が五つの春助次郎は内妻タキに死なれ一衛を親元に返さんとしたがゑなよは娼妓を廢業して所在不明の爲就學期大正十三年春に一衛を仕方なくタキとの間に出來た庶子大正四年三月生れ勝衛として認知届けをなし入學せしめた、一方ゑなよは一衛出生の後間もなく前記の實家戸主佐々木彌五郎方に私生兒一衛として入籍し、其後商賣の足を洗つて阿部良七と新川町に同棲、後赤井村高萩に移り昭和五年十二月死亡した、昨年徴兵適齢に及んで一衛は本籍地で受檢、合格して來月一日仙臺輜重兵大隊に入營することになつたが前記の如く兩方の戸籍に入つてゐる所から本年再び船山勝衛として檢査を受けねばならなくなつたとこの訴に及んだものである

# 冷い世相 慈母鬼となる

因果は廻る小車の

貝泊二兒殺し公判

貝泊村中ノ澤橇引業淺治妻田人村川平生れ酒井マッヨ(三五)に係る二兒絞殺事件公判は今十五日午前十時半より平支部で中島裁判長係り、關口、香西兩判事陪席、清田檢事關與、酒井(官選)辯護士立會、平第二校高等二年生約百名その他傍聽滿員裡に開廷され、事實審問に於てマッヨは涙ながらに

曩に子迄ある夫を捨てた因果か今度は夫に捨てられたと世間の人に云れるを悲しみ世をはかなんで……梁木から下した兵兒帶で二兒を交互に絞殺した

と述べ、傍聽席の同情を唆つて正午休憩に入つた

# 義士會

好間村第二實業公民學校では來る十八日（舊曆十四日）の赤穗浪士仇入り日を期し同日午後六時から義士祭を催し各生徒義士の假裝浪花節其他の餘興で當時を偲ぶと

# 暴行されると 署へ泣込む

前借棒引で歸郷

小名濱町下町三六料理屋大和屋事曾我留次郎方酌婦栃木縣鹽谷郡片岡村生れ村上イシ(三三)は今十五日午後雇主から暴行されるとて平署に泣き込んだので同署人事相談所で直ちに關係者を召喚取調べの結果前借八十圓は棒引にして郷里に歸す事になつた

# 平署檢擧數

昨年中の總決算

犯罪件數縣下一の平署昨年中に於ける總決算—發生三千八百十八件中檢擧は部外檢擧を併せ四千三百四十三件、送致件數千十七件でこれを細別すれば檢擧件數に於ては依然窃盜の千九百件（發生千九百十九件、部外檢擧九十六件）を筆頭に詐欺千九十八件（部外三百十九件）業務上横領五百九十件（部外百九件）などの順で炭鑛地特有の荒々しい處では傷害七十二件、殺人未遂四件、强盜六件、賭博は六十三件の多きに上つた、檢擧人員では窃盜の二百七十八名、詐欺二百五十四名賭博二百三十六名が主なるものである

# 被害二萬圓

主な盜難品内譯

被害高も各署を遙かに凌駕して一萬九千二百八十五圓十錢（中發見被害者還付五、三八〇圓四三錢）でこれが被害種別は現金四千九百六十圓五十五錢（發見同二、二八四圓七十四錢）に次ぎ衣類二千八百五十三圓十九錢（發見四六七圓八六錢）鐵類の昂騰から金物類も二千五百八十八圓九十六錢（發見三〇〇圓四五錢）の巨額に及んで居ると

# 目病み女多數

全体の六割一分强

舊臘末檢診執行の平町のトラホーム患者は（括弧内受檢者）

接客業者二七(三〇一)工場從業員三七(三七五)壯丁二六(一六三)其他六八一(八、七六九)

合計七七一名で受檢者九、六〇八名の八分强に當り内女は全患者の六割一分强を占めて居る

# 八歳で入賞

平第二校尋常科二年生田町鈴木知惠子(八)さんは舊臘開かれた泰東醫院第五回展覽會に入選した

○竣功檢査一束 下三坂地内高橋は工費三千圓總コンクリートの災害補助工事として昨年八月末着工、此程竣功したので昨十四日小林所長檢査、尚上遠野村根岸橋（工費三千八百圓、コンクリート製）も昨年九月末着工此程竣功したので同日來年度改修河川下調査のため來平した縣土木課遠藤技師が檢査した

○自動車幹部會 自動車協會平支部では來十八日午後一時から平署會議室に幹部會を開き愈々來四月建設の自動車檢査場敷地たる八幡小路元磐中グラウンド跡町有地二百坪の買入請願書提出につき協議する

廣告

# 第貳拾七期決算報告書

貸借對照表

資産（借方）

| | |
|---|---|
| 現金並ニ預金勘定 | 四四、三〇五、七三 |
| 有價證券 | 一〇、〇一七、八二 |
| 貸付金勘定 | 一三、四二二、五三 |
| 未收無盡掛金 | 一八一、六二八、三一 |
| 假拂金 | 一、五九六、七二 |
| 營業用土地 | 二〇、一六八、〇六 |
| 建物什器 | 四、一一八、一四 |
| 不動産 | 二七五、二五七、三〇 |
| 合計 | （貸方） |
| 負債 | |
| 未拂無盡給付金 | 五八、九五〇、〇〇 |
| 未拂入札差金 | 八、〇四五、八八 |
| 未拂解約返戻金 | 二〇、八二六、二五 |
| 無盡給付資金 | 一〇〇、九六四、四六 |
| 期限未經過掛金 | 一七、八六二、三一 |
| 集金員勘定 | 三、八三一、五四 |
| 假受金 | 六、八六一、四八 |
| 日掛假受金 | 二〇、五三八、五四 |
| 加入證拂金 | 三一、九〇 |
| 資本金 | 一〇、〇〇〇、〇〇 |
| 法定準備金 | 一〇、一〇〇、〇〇 |
| 特別準備積立金 | 一〇、一〇〇、〇〇 |
| 社員退職給與基金 | 二、六〇〇、九二 |
| 社員保證積立金 | 二、七四二、八二 |
| 當期利益金 | 一、八〇一、二〇 |
| 合計 | 二七五、二五七、三〇 |

損益計算表

| | |
|---|---|
| 利益 | |
| 無盡利益 | 五三、一五九、八七 |
| 諸利益金 | 二、七五九、五二 |
| 前期繰越金 | 二九七、一五 |
| 合計 | 五六、二二六、五四 |
| 損失 | |
| 未收無盡掛金銷却 | 五、八五九、九九 |
| 營業用建物什器銷却 | 六〇〇、〇〇 |
| 假拂金銷却 | 一五、一二 |
| 特別配當金 | 八、二〇三、四〇 |
| 營業費 | 三九、七三六、八三 |
| 當期利益金 | 一、八〇一、二〇 |
| 合計 | 五六、二二六、五四 |
| 利益金處分 | |
| 法定準備金 | 五〇〇、〇〇 |
| 特別準備金 | 五〇〇、〇〇 |
| 社員退職給與基金 | 二〇〇、〇〇 |
| 賞與金 | 三〇〇、〇〇 |
| 後期繰越金 | 三〇一、二〇 |

昭和九年十二月三十一日

福島縣石城郡平町字大町十一番地

磐城無盡商會

會長 小宅嘉久治

發期末現在無盡給付金確定高 四〇七六、二〇〇、〇〇

當期末滿無盡完了高 四八七二、八九九、〇〇

合計 八九四九、〇九九、〇〇

株式賣買、債權取立

合資會社 三共商事

平町大町電三六〇

美味で評判の イワキサロン

平町電三五二